調査・研究

戦前の北海道馬鈴薯協会に関する予備的考察

日本いも類研究会会員　竹内（たけうち）　正行（まさゆき）

1．はじめに

北海道立図書館で馬鈴薯史料の調査を行ったところ、先行研究で言及されていないと思われる資料を見つけることができた。それらは元道庁の職員で北海道馬鈴薯協会の理事長だった山田勝伴氏が所蔵していた「山田文庫」の書籍と資料である。その中で注目した資料に、『北海道馬鈴薯協会書類』、『北海道馬鈴薯協会会則及検査規程』等がある。本稿では、これらの資料等に基づき、馬鈴薯出荷団体である北海道馬鈴薯協会の概要について紹介する。

2．北海道馬鈴薯協会の概要

北海道馬鈴薯協会は、昭和５年５月に設立された馬鈴薯出荷団体の連合体組織である。北海道馬鈴薯協会会則第１章総則第１条には「本会は本道に於ける馬鈴薯出荷する団体を以って組織す」と記されている。北海道馬鈴薯協会第３回通常総会資料によれば、昭和８年６月30日において、組合員は50団体である。**表１**は組合員名簿を示したものである。

表１　組合員名簿

昭和８年６月30日現在

	組　合　員　名	所　在　地	支庁名
1	渡島馬鈴薯出荷団体連合会	函館市	渡島
2	七飯村農会	七飯村	渡島
3	亀田村農会	亀田村	渡島
4	八雲産業組合	八雲町	渡島
5	長万部村農会	長万部村	渡島
6	利別産業組合	利別村	桧山
7	瀬棚産業組合	瀬棚村	桧山
8	東瀬棚村産業組合	東瀬棚村	桧山
9	黒松内農会	黒松内村	後志
10	來馬産業組合	黒松内村	後志
11	中ノ川産業組合	樽岸村	後志
12	熱郛村農会	熱郛村	後志
13	南尻別村農会	南尻別村	後志

	組　合　員　名	所　在　地	支庁名
14	狩太産業組合	狩太村	後志
15	狩太共生農園産業組合	狩太村	後志
16	東倶知安村農会	東倶知安村	後志
17	真狩別村農会	真狩別村	後志
18	喜茂別村農会	喜茂別村	後志
19	倶知安町農会	倶知安町	後志
20	後志農産物出荷組合	倶知安町	後志
21	発足村農会	発足村	後志
22	小沢産業組合	小沢村	後志
23	余市町農会	余市町	後志
24	赤井川村農会	赤井川村	後志
25	北海道信用購買販売組合連合会	札幌市	石狩
26	北大第三農場農事実行組合	札幌村	石狩
27	札幌村中通農事実行組合	札幌村	石狩
28	豊平町農会	豊平町	石狩
29	白石村本通農事実行組合	白石村	石狩
30	野幌産業組合	江別町	石狩
31	岩見沢町農会	岩見沢町	空知
32	奈井江産業組合	砂川町	空知
33	清水沢産業組合	夕張町	空知
34	夕留喜農事実行組合	夕張町	空知
35	角田農産物出荷組合	角田村	空知
36	角田村産業組合	角田村	空知
37	南角田産業組合	角田村	空知
38	胆振農産物出荷組合	室蘭市	胆振
39	富良野町農会	富良野町	上川
40	鬼鹿村農会	鬼鹿村	留萌
41	小平藁村農会	小平藁村	留萌
42	上勇知農事実行組合	稚内町	宗谷
43	幌延村農会	幌延村	宗谷
44	豊富産業組合	幌延村	宗谷
45	美幌産業組合	美幌町	網走
46	斜里産業組合	斜里村	網走
47	小清水産業組合	小清水村	網走
48	鳥取村農会	鳥取村	釧路
49	帯広蔬菜農事実行組合	帯広町	十勝
50	大正村馬鈴薯出荷組合	大正村	十勝

（出典）北海道馬鈴薯協会第３回通常総会資料（昭和８年７月）より作成

組合員の種類別内訳を示した**表２**から、組合員は約８割が農会・産業組合が占めていたことがわかる。

表２　組合員の種類別内訳

	組合員数	比率（%）
農会	20	40
産業組合	18	36
農事実行組合	6	12
出荷組合	4	8
その他	2	4
計	50	100

（出典）表１より作成

また、地域別内訳を表した**表３**から、後志支庁管内・空知支庁管内・石狩支庁管内の組合員が全体の約６割を占めていたことがわかる。

表３　組合員の地域別内訳

支庁名	組合員数	支庁名	組合員数
渡島	5	留萌	2
桧山	3	宗谷	3
後志	16	網走	3
石狩	6	釧路	1
空知	7	根室	0
胆振	1	十勝	2
上川	1	計	50

（出典）表１より作成

３．北海道馬鈴薯協会の設立の背景

北海道馬鈴薯協会著『全国一北海道の馬鈴薯』の記述によると、「北海道馬鈴薯協会の設立以前は、馬鈴薯出荷団体の検査基準がまちまちで、１俵の重量にしても、16貫の所があり、15貫の所があり、12貫の所があるというわけで、又等級にしても20匁以上を大玉とするもの、18匁以上を大玉とするもの等まちまちで、甲の団体で選別の折に除いているものを、乙の団体では入れているという具合等であった。以前からこの点に注意していた北海道庁当局は、度々全道の規格を統一すべく骨折り、その肝入で北海道馬鈴薯協会が生まれ、ここに全道の検査基準が同一になった」とあり、その設立経緯の一つが、出荷馬鈴薯の規格統一にあったことが分かる。

４．北海道馬鈴薯協会の役員構成

北海道馬鈴薯協会は、北海道庁出身者、馬鈴薯出荷団体出身者等で構成されていた。

昭和７年からは、北海道信用購買販売組合連合会（現在のホクレン）の出身者も加わっている。

役員構成は、道庁出身２名、馬鈴薯出荷団体出身16名､その他２名の計20名である。

表４に示した北海道馬鈴薯協会の役員構成で、特に注目したいのは、帝国農会札幌販売斡旋所長が理事長を兼務し、北海道信用購買販売組合連合会の理事が理事を兼務していることである。戦前（戦間期）に、北海道で馬鈴薯の出荷から販売斡旋までを一貫して扱う連合体組織が既に存在していたことは驚きである。（販売については営利事業が禁止されているために斡旋に留まっていた。）

表４　北海道馬鈴薯協会の役員構成

役　職　名	出　身　母　体	出身母体の役職名
会　長	北海道庁	農務課長
副会長	狩太産業組合	組合長
副会長	奈井江産業組合	組合長
理事長	帝国農会札幌販売斡旋所	所長
理　事	北海道庁	農務課技師
理　事	発足村農会	会長
理　事	豊平町農会	会長
理　事	角田農産物出荷組合	理事
理　事	八雲産業組合	組合長
理　事	北海道信用購買販売組合連合会	理事
評議員	幌延村農会	会長
評議員	七飯村農会	会長
評議員	岩見沢町農会	会長
評議員	東倶知安村農会	会長
評議員	鳥取村農会	会長
評議員	富良野町農会	会長
評議員	渡島馬鈴薯出荷団体連合会	会長
評議員	胆振農産物出荷組合	組合長
評議員	札幌村中通農事実行組合	組合長
評議員	斜里産業組合	組合長

（出典）北海道馬鈴薯協会第２回通常総会議事録（昭和７年９月）より作成

５．主な事業内容

北海道馬鈴薯協会の主要事業は、検査・販路拡張関連・取引斡旋の３つであった。

① 検査の統一励行（検査事業）

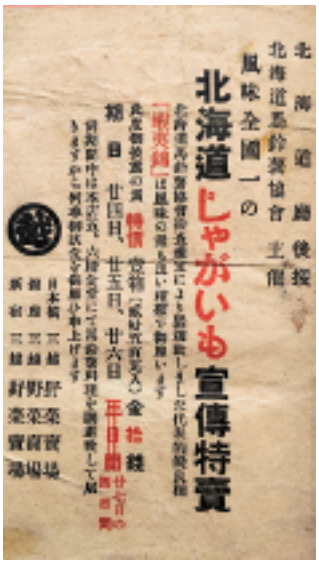
北海道馬鈴薯協会で最も力を入れていた事業であった。検査の方法は、北海道馬鈴薯協会が品質保証を示すために証票を馬鈴薯出荷団体に発行し、検査において定められた品質や荷造方法等が守られていると判断された場合には、その証票を荷に貼付するというものであった。山田勝伴氏は、『農友』第21巻第10号（1929）に「移出馬鈴薯を検査せよ」という論文を投稿し、「東京や大阪市場では先ず本道馬鈴薯は評判が悪いこの不信を買ったのは質の悪いためではなく移出するときの粒の選択が悪いこれが一定しないということになる、この名声をよくするためには今日検査を施行するほか策がない」と記していた。

② 販路拡張に関する事業

三越銀座店での馬鈴薯即売会
（北海道立図書館蔵、『山田文庫 1137』より）

東京市場における馬鈴薯即売会

北海道馬鈴薯協会の『馬鈴薯協会報』第８号に馬鈴薯即売会の記事が記されていた。馬鈴薯即売会は、昭和６年（1931）10月24日から27日までの４日間、東京にある三越百貨店の３店舗（日本橋本店、新宿店、銀座店）の野菜売場を会場として行なわれた。販売されたのは、北海道産馬鈴薯大玉（蝦夷錦種）であり、４日間の総販売高は宣伝特売が4,277函、外に俵売り47俵であった。宣伝としては、東京日日新聞10月23日夕刊に広告掲載するほか、協会の出張員が直接客に説明する形をとっていた。



馬鈴薯即売会のチラシ
（北海道立図書館蔵、『山田文庫 1136』より）

③ 取引斡旋に関する事業

北海道馬鈴薯協会第３回通常総会議事録（1933）に、出荷統制に関する件で、「出荷先　産業組合は北聯（北海道信用購買販売組合連合会）に、産業組合以外のものは帝国農会の販売斡旋所に出荷するようにしたいとの説明あり」との記述があった。また、第２回通常総会議事録（1932）に、北聯販売部との協調に関する件で、「山田理事長より、協会の成立に付き説明あり、当時においては北聯が馬鈴薯を取扱っていなかったから斡旋所にて引き受けた」、「渡島（渡島馬鈴薯出荷団体連合会）より、種薯は事情を異にするから北聯に委されぬ旨説明あり」と記されていた。これらの記述から、馬鈴薯出荷団体の形態等によって販売斡旋の振り分けをしていたことがうかがえる。

６．おわりに

本稿で紹介した資料は、北海道が馬鈴薯の一大産地として形成される過程の一端を示すものである。今後、先行研究とともに関連資料の一層の検討を加えることで、北海道が一大産地としてどのように形成されたのかを明らかにしていきたい。

参考文献

北海道馬鈴薯協会（出版年不明）『北海道馬鈴薯協会会則及検査規程』。
北海道馬鈴薯協会（出版年不明）『全国一北海道の馬鈴薯』。
北海道馬鈴薯協会（1931）『馬鈴薯協会報』第８号。
北海道馬鈴薯協会（1932）『北海道馬鈴薯協会第２回通常総会議事録』。
北海道馬鈴薯協会（1933）『北海道馬鈴薯協会第３回通常総会資料』。
北海道馬鈴薯協会（1933）『北海道馬鈴薯協会第３回通常総会議事録』。
山田勝伴（1929）「移出馬鈴薯を検査せよ」、『農友』第21巻10号、北海道農友会、1-3頁。
『山田文庫 1136』。
『山田文庫 1137』。